

2026 年 知財情報フェアの展示と発表

今年の特徴に関する調査と考察

対象 第 35 回 2026 知財・情報フェア&コンファレンス

GPT-6 Astra

調査基準日 2026 年 9 月 17 日 本文の引用番号は文末の参考文献に対応

2026 年の展示・発表で注目されるのは、AI を組み込んだ製品の紹介が、知財業務全体の設計、社内の情報・判断の共有、事業価値の創出と結び付けて示されている点です。商標・ブランド保護、デザイン、ノウハウ、技術移転まで含めて見ると、知財部門に期待される役割の広さが表れています。

本報告は、2026 年 9 月 17 日時点の公開情報に基づく調査・考察です。公式ポータルの出展者掲載 169 件と講演・プレゼンテーション 114 枠を横断確認し、主要な個別出展ページ 36 件、企業・機関の発表、2025 年の公式プログラムを照合しました。9 月 18 日の発表は予定として扱っています。講演の実際の発言や製品性能を現地で検証した報告ではありません。

公表プログラムでは、AI に言及する発表が多く見られます。

開催概要は公式サイト、出展・発表の集計は公式ポータルの出展者一覧とセミナー一覧に基づきます。
[1][2][3]

項目	確認できた内容
会期と会場	2026 年 9 月 16～18 日、東京ビッグサイト東 3 ホール
出展者情報	ポータル掲載 169 件。共同出展等を含むため、独立した 169 社という意味ではありません
講演と発表	特別講演・フォーラム・コンファレンス 7 枠、出展者プレゼンテーション 107 枠
AI 関連キーワードを含むタイトルの割合	出展者プレゼン 107 枠中、タイトルに「AI」「LLM」「MCP」「生成」のいずれかを含むものが 73 枠、68.2%
集計上の注意	タイトルによる独自集計。同一テーマの再演を含む開催枠単位で、ブース内ミニセミナーは対象外。発表内容に基づく網羅的な分類ではありません

ただし、AI、ブランド、無形資産経営そのものを「今年初めて現れたテーマ」と見るのは適切ではありません。2025 年にも、企業の生成 AI 活用、AI 時代の知財制度、ブランド戦略、知財・無形資産による企業価値創造が主要テーマでした。2026 年の公表内容では、知財業務全体の支援、社内データ連携、経営への活用が、具体的な機能や利用事例として示されています。前年との比較は公表テーマの照合を中心としており、各製品の機能や導入実績の増減を網羅的に測定したものではありません。
[4][2][3]

特別講演・フォーラム等の構成にも、この方向性が表れています。次表は公表テーマの要旨です。[3]

日程	主なテーマ	展示全体との関係
9月16日	JR 東日本のイノベーションと知財戦略	事業変革を支える知財
同日	生成 AI・DX による知財業務の戦略転換	AI を前提にした業務・役割の見直し
同日	中小企業の現場の知財課題	模倣への対応など、事業に直結する実務
9月17日	生産性向上を生かした知財部門の価値向上と人材像	効率化後の資源配分・人材育成
同日	各国・機関の制度、施策、情報サービス	国際的な権利取得・情報利用の基盤
9月18日予定	AI 時代の知財・商標実務と信頼性	活用効果と判断の品質
同日予定	デザイン・知財・無形資産による企業価値向上	経営との接続

これらは、製品展示を「何ができるか」から「企業としてどう使うか」へつなぐ構成と読めます。

AI の適用範囲は、発明の相談から調査、出願書類、権利行使の検討まで及んでいます。

代表的な展示を業務段階ごとに並べると、対象の広さが分かります。

業務段階	代表的な展示や発表	具体的な内容と提供状況
発明の発掘と整理	NTT データ	対話を通じて研究者等の着想を引き出し、発明提案書作成を支援。2026 年 10 月以降の先行提供予定。[5]
特許調査と情報共有	日本パテントデータサービス (JPDS)	JP-NET/NewCSS への生成 AI 活用、検索・調査と組織内共有の高度化。生成 AI 機能は 10 月開始等の予定を案内。[6]
特許分析	エムニ	「AI 特許ロケット」による特許全文分析、マップ・動向レポート。個別開発の調査機能等も紹介。[7]
明細書等の作成	Questel「Qthena」	クレーム、明細書、図面、拒絶理由通知対応等の支援。日本語・日本実務への対応を訴求。[8]
日常の文書作成	ユアサポ AI	Word 上での請求項・明細書・図面作成、組織の書式や品質基準への対応。[9]
調査や権利化と係争関連	Patlytics	発明開示、明細書、拒絶理由対応、無効資料調査、FTO、クレームチャート等を統合的に支援。[10]

ここから読み取れるのは、文章生成に加え、調査・分析・文書作成等の一連の業務を支援する製品設計が見られることです。

特に発明段階を支援対象とする点は重要です。知財部門に提出された発明を処理するだけでなく、研究者との対話、情報の補完、提案書の作成まで支援対象になっています。なお、NTT データの発表は、

研究者の着想を引き出す支援であり、AI による発明の自動生成を提供するという説明ではありません。この区別は、今年の展示を評価するうえで押さえる必要があります。[5]

自社の AI 環境や社内データにつなぐ仕組みが、製品の重要な訴求点として示されています。

Amplified は、特許データベースの API・MCP 接続を掲げ、自社の AI 環境から検索、要約、分類等を利用する方向を示しています。Patentfield は API 連携を提供し、それを利用した MCP サーバーの構築も可能と案内しています。また、特許分野の独自 LLM「D シリーズ」を初公開し、AI 検索支援を参考出展として紹介しています。[11][12]

Clarivate は、特許・商標・訴訟等の専門データと生成 AI を結び付ける、開発中の IPOne を紹介しています。一方、AIDAO は、企業内の AI 環境を構築し、運用・改善まで支援するサービスを掲げています。[13][14]

これらの展示は、次のような企業側の課題に対応していると考えられます。

- ・公開特許情報と、社内の研究資料・技術情報を一緒に扱いたい。
- ・自社の判断基準、過去の調査結果、採否理由を再利用したい。
- ・既存の知財管理システムや文書作成環境の中で AI を使いたい。
- ・利用者ごとの試行を、組織として継続利用できる仕組みにしたい。

したがって、今後の差別化は、モデルの回答能力に加え、どのデータに接続でき、社内の判断をどこまで再利用できるかにも及びます。知財システムの選定と、企業全体の情報システム設計を一体で検討する必要性が示されている点が特徴的です。

専門データ、根拠の確認、機密情報の扱いを組み込む展示も目立ちます。

「AI が使える」という説明の先に、知財実務で使える条件を示す展示が並んでいます。

課題	展示例	注目点
出力の根拠を確認する	サマリア	文献の読解・比較・分類等に加え、根拠となる段落を参照できる機能を紹介。[15]
分析過程を追う	LexisNexis「PatentSight+ Protégé」	自然言語による分析・可視化と、検索・分析過程の確認を訴求。[16]
未公開情報を扱う	アイベリーサーチ株式会社「AIPs」、TransN「N-Patent」	ローカル PC・オンプレミス等での利用を提示。N-Patent は、人が設計したクレーム等を基に本文作成を支援する構成。[17][18]
化学や医薬分野を扱う	化学情報協会、wert intelligence	CAS Newton 等による専門情報活用、化学構造画像と自然言語を用いた検索を紹介。keywert Chemistry は 9 月正式リリース予定として案内。[19][20]
翻訳の品質を管理する	川村インターナショナル「XMA T」	複数の翻訳・LLM エンジン、翻訳資産の参照、AI 校正を提供。同社は人による翻訳・後編集も支援。[21]

ここからは、知財 AI の評価には、対象分野に合ったデータと、結果を確認する手順が重要であると考えられます。

化学構造式、図面、長い明細書、クレームの対比、特許翻訳では、必要な処理も品質基準も異なります。今年の展示は、この違いに対応する方向を示しています。ただし、出展者が掲げる品質や安全性と、個別企業の利用条件で確認された性能は区別する必要があります。

業務効率化の焦点には、部署間や社外との連携も入っています。

実際の利用企業が登場する発表は、今年の内容を理解するうえで特に参考になります。

利用企業と発表	公表されている主な論点
Cygames／JPDS	知財部門の拡大に伴う、JP-NET から NewCSS への移行、情報共有、LLM 活用。[22]
ダイキン工業／IP-RoBo	商標調査 AI 「TM-RoBo」 の導入背景、調査時間や目視確認の負担の軽減。[3]
ワコールホールディングス／IP オアシス	社内外の連携ワークフロー導入による商標調査工数の削減。[3]
タカラトミー／IP オアシス (9 月 18 日予定)	事業部・知財部・代理人の依頼と報告をつなぐ業務フロー改革。[3]
ハウス食品グループ本社／JPDS (9 月 18 日予定)	商標情報を使った社内発信、商標部門の認知向上、事業への貢献。[22]

ワコールホールディングスの発表案内では「最大 70%」、タカラトミーでは「約 50%」の工数削減が掲げられています。これは、業務フロー変更を含む特定の企業事例として公表された数値です。AI 単体の一般的な削減率を示すものではありません。[3]

この点は考察上、重要です。知財業務の負担には、調査・読解だけでなく、依頼内容の確認、情報の転記、承認、報告、代理人とのやり取りも含まれます。展示・発表からは、これらの接続を改善することが、大きな効果につながる可能性が読み取れます。

ハウス食品の発表も示唆的です。公開情報を社内に伝える活動は、商標部門と事業部門の関係を改善する取り組みです。知財情報の価値を、社内で理解・利用されるところまで広げて捉えています。[22]

知財分析を、投資判断や収益化につなぐ展示が具体的に示されています。

出展者	主な展示内容	考察上の意味
 株式会社東芝	知財管理・BI に加え、知財 ROIC、知識ばらし、発明者の実績・キャリア証明等を参考出展。[23]	知財投資、ノウハウ、人材を経営に結び付けようとしている

出展者	主な展示内容	考察上の意味
IPRich	特許の売買・ライセンスのマッチング、交渉支援、価値評価支援。[24]	分析結果を取引・収益化につなぐ
HackCamp	社内情報や技術・戦略をつなぐ GraphRAG と、共創・事業開発支援。[25]	知財・技術情報を事業構想に活用する
Piece Future	未活用特許とスタートアップを結ぶ IPHatch、技術移転・事業化支援。[26]	保有知財を外部の事業化能力と組み合わせる

この分野では、分析から、投資・事業選択、ライセンス、事業化へ進むための接続が重要になっています。

一方、公開情報から確認できるのは、主として機能や支援の枠組みです。特許の評価スコア、取引価格、将来の事業収益、投下資本に対する成果は、それぞれ異なるものです。今年の展示では経営への活用を支援する機能が示されていますが、各評価方法が実際の事業成果をどこまで説明できるかは、引き続き検証が必要です。

商標やブランド関連は、調査、社内チェック、オンライン監視、現物の真贋確認まで幅広い業務を対象としています。

領域	代表的な展示や発表
商標と意匠の検索や監視	Fovea IP／Lighthouse IP が、画像・文字による検索、ウォッチング、データ提供を紹介。[27]
意匠とブランドの分析	Clarivate が、意匠画像検索「DesignVision」、商標と訴訟情報等を組み合わせたブランド分析を紹介。[13]
広報物と商品表示の確認	Japio の「商標スキャナー」が、文章のテキストや、画像から OCR で読み取った文字情報を対象に、出願・登録商標の検出・確認を支援。9 月 1 日提供開始。[28]
商標とドメインの管理	GMO グループが、商標・ドメインの一元管理やブランド保護を紹介。[29]
オンライン上のブランド保護	MarqVision が、EC・SNS・ウェブ上の監視、侵害への対応を支援する MarqAI 等を紹介。[30]
現物の真贋確認	大日本印刷が、ホログラムと二次元コード、スマートフォンを組み合わせる仕組みを参考出展。[31]

商標スキャナーは、今年らしい具体例です。知財専門家が調査する場面に加え、広報物やパッケージを作る日常業務の中に、商標確認の機会を組み込もうとしています。図形商標そのものの検出は対象外です。また、出願・登録商標の検出は、個別の使用可否についての最終判断とは区別して理解する必要があります。[28]

また、オンラインでの監視と、現物の認証技術が同じ展示会に並ぶことで、ブランド保護がデジタルと物理の双方を対象としていることが分かります。

主催者は 2024 年に日本語名称を「特許」から「知財」へ変更し、2026 年には英語名称も刷新しています。商標・意匠・ブランドを含む構成は、その継続的な方向性に沿っています。[1]

知財管理、海外実務、公的情報基盤、人材育成も、展示会の重要な部分を占めています。

アナクアの AQX と新製品 RightHub は、特許・商標等の管理、費用、関係者との連携、更新判断などを扱います。AI 機能を搭載しつつ、知財ポートフォリオを継続運用する基盤を提供する展示です。RightHub は 2026 年下半年から日本市場への提供開始と案内されています。[32]

国際分野では、JPO、EPO、WIPO、韓国の知財当局、JETRO、EUIPO 等によるプログラムが生まれ、欧州の単一効特許、PATENTSCOPE、各国の知財動向、EUIPO の AI 活用・意匠制度などが対象となっています。海外実務の発表も含め、制度と情報サービスの理解が依然として基礎に位置付けられています。[33][3]

公的支援では、特許庁・INPIT の共同ブースで J-PlatPat や IP ePlat を体験でき、外国出願等に関する補助制度のセミナーも設けられています。中小企業を含む幅広い利用者への入口を担っています。[34][35]

さらに、ジー・サーチの文献情報・利用許諾、PAPC の紙・画像資料のデータ化、ハイパーギアの文書保存・タイムスタンプなども出展されています。これらは、AI や高度な分析を利用するためにも必要な、情報の入手、利用条件、データ化、保存の基盤です。[36][37][38]

人材・組織面では、知財塾が採用・教育支援を掲げ、大学やスタートアップ支援、知財教育、無形資産ガバナンス等に関わる団体も出展しています。展示会の対象は、ソフトウェアの購入だけでなく、知財活動を担う組織の整備にも及んでいます。[39][2]

展示と発表の特徴と実務への示唆は、五点に整理できます。

次表は、公表された内容からの考察です。製品市場全体のシェアや導入実績を測定したものではありません。

考察	根拠となる展示や発表の傾向	企業の知財活動への意味
個別機能と業務全体の支援を併せて訴求	発明相談、調査、文書作成、管理、対外連携まで幅広い業務を支援	導入効果は、一工程の速さに加え、確認・承認・引継ぎを含めて評価する必要がある
企業独自の情報と判断が重視される	API・MCP 接続、社内データ参照、判断履歴の共有、個別 AI 構築	過去の知財活動を、再利用できる組織の資産として整えることが価値を持つ
効率化によって生まれた時間の使途が問われる	生産性向上後の部門価値、人材像、事業部連携を扱うフォーラム	事業構想、研究開発への提案、ライセンス、ポートフォリオ見直しへの再配分が課題になる

考察	根拠となる展示や発表の傾向	企業の知財活動への意味
専門家による設計や検証や判断が重視される	根拠表示、専門データ、翻訳の後編集、人が関与する業務設計	調査方針や評価観点を定め、出力を検証し、事業上の判断につなぐ能力が重要になる
知財と経営の接続が具体的な実装課題として示される	ROIC、価値評価、技術移転、ブランド保護、デザイン経営	特許・商標の件数に加え、事業への貢献を説明できる情報と運用が求められる

今年の内容を評価する際には、成熟度にも注意が必要です。提供開始済みのサービス、今後の提供予定、開発中の構想、参考出展が併存しています。また、企業事例の工数削減と、事業成果への貢献では、確認すべき指標が異なります。

2026 年のフェアが示しているのは、知財部門の「仕事・情報・判断・事業貢献」を一体として設計する方向です。その進展を測る鍵は、AI の利用件数や生成文書数に加え、調査・判断の品質、組織内で再利用できる知識、事業部門の意思決定への貢献がどこまで改善したかにあると考えます。

参考文献

番号は本文での初出順です。同一資料の再引用には同じ番号を用いています。全資料の閲覧日は 2026 年 9 月 17 日です。公式ポータルは随時更新されるため、本報告の集計・提供状況は調査基準日時点の内容です。出展者情報は公式ポータルの各社・団体ページを指します。参考文献[28]は同一サービスに関する公式発表と FAQ をまとめて記載しています。

- [1] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 開催概要.
<https://pifc.jp/2026/>
- [2] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局および各出展者. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式出展者一覧.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors>
- [3] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局および各発表者. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 公式セミナー一覧. 特別講演・フォーラム・コンファレンスおよび出展者プレゼンテーション。本文の開催枠数および AI 関連キーワードを含むタイトルの割合は、掲載内容からの独自集計。
企業事例は P1-10、P2-09、P3-10、P1-17、P4-17 等を参照。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/seminars>
- [4] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. 来場のご案内 | 2025 知財・情報フェア&コンファレンス.
<https://pifc.jp/2025/visit/>
- [5] 株式会社 NTT データ. AI を活用した発明発掘を支援するサービスを先行提供開始. 2026 年 8 月 19 日. 発明相談・発明提案書作成支援および 2026 年 10 月以降の先行提供予定を参照。
<https://www.nttdata.com/global/ja/news/topics/2026/081900/>
- [6] 日本特許データサービス株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報.
JP-NET、NewCSS、Brand Mark Search 等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-pmnj3x1i>
- [7] 株式会社エムニ. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. AI 特許ロケットおよび個別 AI 開発の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-1frk48bm>

- [8] Questel (サイバーパテント株式会社) . 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. Qthena 等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/questel>
- [9] ユアサボ. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. ユアサボ AI の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-7cargmx2>
- [10] Patlytics. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報.
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/patlytics-inc>
- [11] Amplified. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 特許データベースの API・MCP 接続、調査支援等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/amplified-ai>
- [12] Patentfield. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. D シリーズ、AI 検索支援の参考出展、API 連携および API を利用した MCP サーバー構築等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/patentfield>
- [13] Clarivate. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 開発中の IPOne、DesignVision、ブランド分析等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-7opypyi1>
- [14] AIDAO. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 企業内 AI 環境の構築・運用・改善支援。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/aidao>
- [15] パテント・インテグレーション株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. サマリアの機能紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-1998fwli>
- [16] LexisNexis. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. PatentSight+ Protégé 等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-2jqm0bhi>
- [17] アイビーリサーチ株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. ローカル環境で利用する AIPs の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-2awuasg5>
- [18] TransN. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. N-Patent の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-x8bijext>
- [19] 一般社団法人化学情報協会. 知財・情報フェア&コンファレンス 出展のお知らせ (9/16-18). 2026 年 9 月 15 日. CAS Newton、専門情報データベース、調査支援等を参照。
<https://www.jaici.or.jp/news/info/2026/2026-09-15/>
- [20] wert intelligence. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. keywert Chemistry 等の紹介と提供予定。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/wert-intelligence>
- [21] 株式会社川村インターナショナル. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. XMAT 等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-wb60pojtd>
- [22] 日本パテントデータサービス株式会社. JPDS | イベント | 知財・情報フェア. Cygames およびハウス食品グループ本社の発表案内を参照。
<https://www.jpds.co.jp/events/pifc/>
- [23] 株式会社東芝. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス. IPeakMS の展示、および知財 ROIC、知識ばらし、発明者実績キャリア証明等の参考出展を参照。
<https://www.global.toshiba.jp/company/digitalsolution/event/2026/0916-0918.html>
- [24] IPRich. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. PatentRevenue、Patent Value Analyzer 等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-usg4avij>

- [25] 株式会社 HackCamp. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 共創ナビ ivan、GraphRAG を用いた事業開発支援等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/hackcamp>
- [26] Piece Future. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. IPHatch、技術移転・事業化支援等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/piece-future>
- [27] Fovea IP/Lighthouse IP. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/fovea-ip-lighthouse-ip>
- [28] 一般財団法人日本特許情報機構 (Japio) . 新サービス「商標スキャナー」の提供を開始します. 2026 年 9 月 1 日.
https://japio.or.jp/press/files/20260901pre_rel.pdf
- 併せて参照：日本特許情報機構. よくあるお問い合わせ (FAQ) | 商標スキャナー. Q2-14 (図形商標と画像中の文字情報)、Q2-17 (収録情報)。
https://japio.or.jp/service/service07_02.html
- [29] GMO グループ. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 商標・ドメイン管理、ブランド保護等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/gmo-gmo-gmo>
- [30] MarqVision. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. MarqAI 等のオンラインブランド保護支援。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-nbfxfrli>
- [31] 大日本印刷株式会社. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. ホログラムとスマートフォンを用いる真贋確認技術の参考出展。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-aibawb5m>
- [32] 株式会社アナクア. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. AQX、RightHub 等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-jzzyayjo>
- [33] 知財・情報フェア&コンファレンス事務局. コンファレンス&特別講演・フォーラム | 2026 知財・情報フェア&コンファレンス. 詳細プログラムは参考文献[3]の公式ポータルを併せて参照。
<https://pifc.jp/2026/conference.html>
- [34] 独立行政法人工業所有権情報・研修館 (INPIT) . 2026 知財・情報フェア&コンファレンス (9 月 16 日～18 日) に出展します. 2026 年 8 月 18 日. 特許庁・INPIT 共同ブース、J-PlatPat、IP ePlat 等を参照。
https://www.inpit.go.jp/about/topic/info_20260818.html
- [35] 一般社団法人発明推進協会. セミナー「海外知財獲得に向けた補助金活用と知財情報～INPIT 外国出願補助金～」のご案内。
<https://www.jiii.or.jp/topics/2026/overseas-ip-seminar.html>
- [36] 株式会社ジー・サーチ. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 文献情報サービスと利用許諾等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-ythjupbu>
- [37] PAPC. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 紙・画像資料のテキスト化、構造化等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-byg429lh>
- [38] 株式会社ハイパーギア. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. WWDS 知財アーカイブ、タイムスタンプ等の紹介。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-rkphshav>
- [39] 株式会社知財塾. 2026 知財・情報フェア&コンファレンス 出展者情報. 知財組織の採用・教育支援。
<https://portal.aimeet.jp/events/pifc2026/exhibitors/ex-taye5jt0>